

第 3 章 環境保全水準及び環境容量

第 1 節 環境保全水準

快適な県土環境を形成するためには、環境質及び自然環境質の各項目について将来にわたり保全すべき目標を設定し、これを維持し、もしくは達成する必要がある。このため、このような目標値としての環境保全水準を設定するものであるが、大気質、水質、騒音については、公害対策基本法に基づく環境基準を基礎としながら本県における実情も加味して設定するものであり、また、自然環境、地盤沈下についての環境保全水準は、現状の科学的知見と各種の資料に基づき得られた知見に基づき設定するものである。

本計画において設定した環境保全水準は次のとおりである。

1. 環 境 質

(1) 大 気 質

二酸化硫黄 公害対策基本法の規定に基づく二酸化硫黄に係る環境基準の1時間値の1日
平均値0.04 ppmを満足する年平均値0.016 ppm以下をもって環境保全水準
とする。

二酸化窒素 公害対策基本法の規定に基づく二酸化窒素に係る環境基準を達成するため、
本県が目標としている1時間値の1日平均値0.04 ppmを満足する年平均値
0.016 ppm以下をもって環境保全水準とする。

(2) 水 質

生物化学的酸素要求量

公害対策基本法の規定に基づく水質汚濁に係る環境基準（ただし生活環境の
保全に関する環境基準）の河川の水域類型ごとに定められている生物化学的
酸素要求量の基準値をもって環境保全水準とする。

化学的酸素要求量

公害対策基本法の規定に基づく水質汚濁に係る環境基準（ただし生活環境の
保全に関する環境基準）の湖沼、海域の水域類型ごとに定められている化学
的酸素要求量の基準値をもって環境保全水準とする。

(3) 騒 音

環境騒音に係る環境

A A 地域（療養施設

騒音レベ

A 地域（主として

B 地域（相当数の

C 地域（A A 地域

ただし、A 地域、B
基準値を基礎として

特殊騒音としての

に定められている現

(4) 地盤沈下

地盤沈下のみられ

地盤沈下の恐れ

2. 自然環境質

都市的形態を有し、
と当該地域における都
をもって環境保全水準

第 2 節 環 境

前節に掲げた環境保
あるが、現状の科学的
ので本計画においては

1. 環 境 質

(1) 大 気 質